

軸標座

「まだアカン。もつと
 チャレンジドが活躍でき
 る社会にせな」。新聞の
 連載記事（2月7日付
 「日経」バリアフリーの
 先へ）で、いつもながら竹中ナミ
 さんのパワフルな関西弁に元気を
 もらった◆障がい者の就労支援に
 取り組む社会福祉法人プロップ・
 ステーションの理事長だが、彼女
 は障がい者とは言わず、チャレン
 ジドと呼ぶ。挑戦する使命とチャ
 レンスを与えられた人という意味
 だ。そして重い脳障がいの娘を授
 かり「娘がくれた生き方」で突き
 進む自分自身をも「ラッキーウー
 マンなんや!」と◆竹中さんとい
 えば、2002年2月、公明など

与党3党の女性国会議員による
 「ユニバーサル社会形成促進P
 T」発会式での基調講演を思い起
 こす。魂を揺さぶる「チャレンジ
 ドを納税者にできる日本に!」と
 の叫びに胸が震えたのを覚えてい
 る◆公明党がめざすユニバーサル
 社会とは、障がいの有無や性別、
 年齢、国籍などにかかわらず誰も
 が尊重される共生の社会だ。その
 実現は容易ではないが、竹中さん
 は教えてくれる。何よりも女性の
 力、母の力が不可欠であることを
 ◆きょう3月8日は、国連が定め
 た国際女性デーである。命を産み
 育む豊かな感性と鋭い直感力に最
 敬礼! 時代を創る女性の熱と力
 に心からエールを送りたい。